

第四次箕面市子どもプランの進捗状況について

プランに掲載されている各事業の、これまでの取組と今後の課題をとりまとめました（参考資料1）。本資料は、全事業のなかから、施策体系ごとに主要な事業を取り上げたものです。

1. 家庭・地域における子育て環境の充実（プラン p.35）

保護者が悩むことの多い家庭教育では、社会からの支援が必要です。しかし、日頃から関係性のある支援先でなければ、子育て家庭は、なかなか悩みを打ち明けたり、支援を受けたりすることに至りません。そこで、日頃から広く様々な子育て資源を開放していくとともに、“出向く”支援に力を入れていきます。

また、発達上支援を必要とする子どもに対しては、子どもがのびのびと育ち、保護者が安心して子育てができるよう、きめ細かい支援を子どもの成長段階で途切れることなく実施していきます。

○「箕面子育て応援ブック」の発行

これまでの取組み状況	今後の課題や方向性
<p>妊娠期から小学校入学までに必要な子育て情報をまとめた冊子「箕面子育て応援ブック“SMILE”」（全7冊）を作成しました。助産師や保健師、保育士、小学校教諭など、専門知識を持った市職員によるアドバイスや子育て情報などを盛り込み、妊娠届時、出生届時、生後2か月頃の家庭訪問時、乳幼児健康診査時（4か月児、1歳6か月児、3歳6か月児）、就学時健診時に、それぞれの年齢に合った冊子を配布し、子育て情報等を切れ目なく提供しています。</p>	<p>情報を必要としているかたに、タイムリーに、かつ対面で情報提供していきます。また、内容の充実に努めます。</p>

* 子ども未来創造局子どもすこやか室

* 参考資料2（箕面子育て応援ブック“SMILE”）

○地域に飛び出す子育て支援センター

これまでの取組み状況	今後の課題や方向性
<p>市内全域の公共施設を利用して、在宅の子育て家庭が気軽に集える出張子育てひろばを開催し、保育士と保健師等の専門職が対応することで、親子の交流、つながり作りや子育て情報の提供を行います。子育て支援センターに来所しづらい森町及び彩都地区での</p>	<p>出張子育てひろばの実施内容の周知に努め、多くの親子の外出促進を図ります。 さらに子育て世帯の多い箕面森町地域やみのおサンプラザ建替</p>

<p>開催を手厚くするとともに、市内全域での開催場所を増やし、平成 30 年度 226 回、令和元年 229 回、2 年度 159 回、3 年度 150 回、4 年度 203 回の開催しました。コロナ禍では、「お外で遊ぼう」の戸外活動を増やしました。</p>	<p>え期間中における西部地域の開催増も継続します。</p>
---	--------------------------------

* 子ども未来創造局子育て支援室

○要保護児童対策協議会の機能の強化

これまでの取り組み状況	今後の課題や方向性
<p>平成 29 年 12 月の児童虐待死事案を受け、平成 30 年 4 月に「児童相談支援センター」を設置し、関係室長を担当室長として兼務させ、必要な支援に漏れがないよう対応しています。また、専門資格を有する「子ども家庭総合支援員」の配置や、府子ども家庭センターOB 職員である「児童相談支援専門員」を配置し、専門性の強化に努めました。さらに、第三者委員を加えた要対協児童虐待部会において、厳しいリスク判断のもと、確実な支援実施と役割分担の明確化を行いました。令和 4 年度からは、共同アセスメントに必要な情報を、関係機関で漏れなく共有するため、府子ども家庭センターと統一様式の協議資料を策定しました。令和 5 年度には、全登載ケースを見直すための会議日数を増やし、より丁寧に支援経過や家庭状況を共有し、リスクや支援方針の見直しを行っています。</p>	<p>継続して連携を強化していきます。</p>

* 子ども未来創造局児童相談支援センター

2. 保育・教育サービスの質的・量的充実（プラン p.47）

保育所や幼稚園などの就学前保育・教育サービス及び学童保育や地域子育て支援センターなどの子育て支援サービスの提供量を定めています。

※資料2-3参照

3. 子育て世代に対する労働環境の整備（プラン p.83）

保護者にとっては、安心して子育てできることだけでなく、仕事や社会参加等と子育てのバランスを保つことも大切です。そこで、保護者が働きやすい労働環境を整備するため、企業等への啓発に取り組むとともに、子育て世代に対する就労支援を進めます。また、その基盤として、男女協働参画社会の形成に向けた啓発を行います。

○高等職業訓練促進給付金事業

これまでの取り組み状況	今後の課題や方向性
箕面市ホームページでの周知、児童扶養手当の認定時や現況時等チラシの配布を行いました。	就労やそれに繋がる専門的な資格取得に向けて、継続して実施します。

* 子ども未来創造局子育て支援室

○保育所等の優先入所

これまでの取り組み状況	今後の課題や方向性
保育所等の入所については、ひとり親家庭が優先的に入所できるよう配慮しました。	引き続き、保育所等の入所について、ひとり親家庭が優先的に入所できるよう配慮します。

* 子ども未来創造局保育幼稚園利用室

4. 子どもの遊び場づくり (プラン p.85)

子どもは、自由にのびのびと遊ぶ中で、自然や社会のルール、人間関係を学んでいきます。しかし近年では、都市化等、環境の変化や情報化の進展により子どもの遊び場・遊び方が変化しています。環境の変化をふまえ、子どもの成長や安全に配慮しながら、子どもの自主性や感性を育むことのできる遊び場を確保していきます。

○小学校の余裕教室等の活用に関する具体的な方策

これまでの取り組み状況	今後の課題や方向性
学童保育室及び自由な遊び場開放のプレイルームに加え、すたさぼと活動プログラムを、学校の教室等を活用し、実施しました。	引き続き小学校の余裕教室等を活用し、放課後関連事業を実施します。

* 子ども未来創造局放課後子ども支援室

○放課後児童健全育成事業（学童保育）及び放課後子ども教室（自由な遊び場開放事業）の一体的な実施に係る教育委員会と福祉部局の具体的な連携に関する方策

これまでの取り組み状況	今後の課題や方向性
学童保育事業及び自由な遊び場開放事業を、教育委員会において一体的に実施しました。	引き続き学童保育事業及び自由な遊び場開放事業を、教育委員会において一体的に実施します。

* 子ども未来創造局放課後子ども支援室

5. 子どもの文化的・社会的活動の支援（プラン p.89）

子ども自らが創造的な子ども文化をはぐくみ、のびのびと成長することで、自らの可能性を広げることができるよう、豊かな自然や地域の歴史文化、多様な文化、地域の大人等、様々な体験や人との出会いやコミュニケーションを通じてつながる機会を確保していきます。

○こども会活動の支援

これまでの取り組み状況	今後の課題や方向性
平成 30 年度末をもって、こども会育成協議会が解散したことを受け、市教委が直接単位でこども会を支援することになり、地域での調整等の体制を整備しています。	組織率の低下を防ぐため、新規入会者獲得に向けた啓発に努めるとともに、育成者の負担を軽減するための支援も継続していきます。

* 子ども未来創造局青少年育成室

○乳幼児をもつ保護者の図書館利用の促進

これまでの取り組み状況	今後の課題や方向性
中央図書館、東図書館、船場図書館のにぎやかエリアにて終日、その他の図書館でも毎日午前中に「すくすくタイム」を実施し、また、乳児を対象としたはじめてのおはなし会を各館で実施するなど、乳幼児と来館しやすい雰囲気作りを行い、図書館の親子利用を促進しました。	継続して実施します。

* 子ども未来創造局中央図書館

6. 教育の充実と開かれた学校づくり (プラン p.93)

子どもたちの「豊かな育ち」と「確かな学び」を実現するため、子どもたちの主体的な学習活動を展開し、学習に対する興味・関心・意欲を喚起しながら、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図り、地域資源を生かした豊かな人間性と創造力を育む教育を推進します。また、こうした教育を行う学校が保護者や地域から信頼され、連携して教育環境を整えることができるよう、家庭や地域が学校運営に参画する場の活用を進めていきます。

○箕面子どもステップアップ調査 (箕面学力・体力・生活状況総合調査)

これまでの取り組み状況	今後の課題や方向性
4月全国学力・生活状況調査、5月体力調査、6月生活状況調査、10月いじめアンケート、12月学力・生活状況調査、2月学校生活アンケートを実施し、分析を行い、今年度の取組の成果や課題をまとめました。	引き続き「箕面子どもステップアップ調査」を実施し、結果を蓄積することで、箕面の子ども一人ひとり、クラス毎、学年毎、学校毎、また箕面市立小中学校の子どもたち全体の学力・体力・生活状況を把握・分析し、組織的に共有するとともに、課題を次年度に着実に引き継ぐことで、一人ひとりの子どもに応じた教育活動を継続的に推進します。

* 子ども未来創造局学校教育室

○英語教育の充実

これまでの取り組み状況	今後の課題や方向性
箕面市オリジナル指導案集「エンジョイ イングリッシュ」や「Hold Hands for JHS」、英語教育スーパーバイザーによる学校巡回と指導助言を定期的実施しました。さらに、就学前英語教育として、市内公立幼稚園・保育所に加え、民間施設にも月2回の頻度で外国語指導助手(ALT)を派遣しました。・小・中学生の英語表現能力を育成する取組として、箕面市イングリッシュエクスプレッションコンテストを大阪大学外国語学部箕面キャンパスで開催しました。	引き続き、英語教育スーパーバイザーを中心に指導助言を進めていき、授業支援の強化、授業改善を進めていきます。 また、中学校英語コミュニケーション科の内容について、初任者や他市からの転勤教員にとってもわかりやすい内容へ改訂します。

* 子ども未来創造局学校教育室

7. 健全育成と自立支援（プラン p.100）

子どもは、自らの目標に向かって個性や能力を伸ばしていくことで、未来を切り拓いていくことから、自己の個性や能力を発見し、将来の目標をもつための教育や相談支援を推進します。また、問題行動が起きたり、虐待や被害を受けたりした場合には、早期に発見し、専門的な対応ができるよう、関係機関による連絡調整や相談支援の体制を整えていきます。

○こども110番の設置事業の充実

これまでの取り組み状況	今後の課題や方向性
8月のこども110番月間に合わせて、広報紙「もみじだより」での周知及び自治会へのチラシを配布しました。また、1月の小学校入学説明会でのチラシ配布や2月の青少年育成市民大会での広報活動を実施しました。（設置数は令和4年度2146件）	更なるご協力を呼びかけるとともに、古くなったステッカーの交換も実施していきます。

* 子ども未来創造局青少年指導センター

8. 世代をつなぐ生涯学習・交流の促進（プラン p.103）

子どもが地域の大人と接することは、社会性の育成や人生やものの大切さ、伝承文化に対する学びにつながります。また、地域で子どもを育てる意識の醸成にもつながります。このような機会が日常的に提供されるよう、地域の伝統行事や地域活動、生涯学習にて世代間の交流を図ります。

○包括協定締結の大学等関係機関との連携による、世代をつなぐ交流の場、生涯学習の機会の提供

これまでの取り組み状況	今後の課題や方向性
包括協定締結の大学等関係機関と連携し、生涯学習の機会の充実を図りました。	連携を強化し、生涯学習機会の充実を図ります。

* 子ども未来創造局文化国際室

以上